

水稻の生育状況（7月24日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2026年7月24日

1 生育状況

7月24日現在の水稻の生育状況は、平年値*と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況（7月24日現在）

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬	平年並み	少ない	平年並み
	6月中旬	低い	平年並み	薄い
にじのきらめき	6月上旬	平年並み	少ない	濃い
	6月中旬	低い	多い	やや濃い
てんこもり	6月上旬	平年並み	やや少ない	濃い
	6月中旬	低い	多い	薄い

* ‘はるみ’ 2016～2025年までの過去10年平均 ‘にじのきらめき’ 2025年の値
‘てんこもり’ 2018～2025年までの過去8年平均 との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が7月23日に発表した1か月予報（7月25日～8月24日）では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

（1）水稻の生育状況

7月24日現在の水稻の生育状況は、平年と比較して、6月上旬植えて草丈が平年並み、茎数が少ない、葉色が平年並み～やや濃い、6月中旬植えて草丈が低い、茎数が平年並み～やや多い、葉色が平年並み～やや薄いでした。出穂期は、現時点の生育と今後の気象予報から平年並み～やや遅いと予想されます。※ 出穂期の目安は表3を参照

（2）追肥

出穂後に高温が続くと生育後半に窒素不足になりやすく、白未熟粒の発生が多くなるため、適切な追肥管理を行いましょう。

（3）紋枯病

近年、「紋枯病」の発生が多くみられています。「紋枯病」は、高温・多湿条件で多発し、水稻が倒伏しやすくなります。特に施肥量を多くした場合は発生に注意してください。

昨年発生が見られた水田では穂ばらみ期（出穂15日前から出穂期）までに防除を行いましょう（図1）。



図1 紋枯病

(3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂期 15 日前から出穂期 10 日後）までの期間は、水稻が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないようにしてください。

また、出穂後に高温が続く場合は、高温障害により白未熟粒や胴割粒などの発生が多くなるため、「かけ流しかん水」を行いましょう。用水が十分でなく、かけ流しが困難な地域では「間断かん水」を行いましょう。

(4) 斑点米カメムシ類の対策（図 2）

斑点米カメムシ類は水田内および周辺の雑草で増殖し、出穂期以降に粃を吸汁して斑点米を発生させ、品質低下の要因となります。また、一部のカメムシ類は不稔を引き起こし、減収の原因になります。日頃から、水田周辺や水田内の除草管理を徹底しましょう。特に、周囲よりも出穂が早いほ場は、注意しましょう。畦畔雑草の除草は出穂 10 日前までに終わらせ、その後はイネ科雑草が出穂しないように雑草を管理しましょう。

県内の病虫害発生状況、農薬の適正使用については下記リンクをご参照ください。

(5) イネカメムシの侵入に注意（図 2、3）

イネカメムシは、斑点米の発生による品質低下、不稔による減収を引き起こします。特に不稔は出穂直後～乳熟期に加害されると発生率が高まります。

そのため、イネカメムシが発生する場合は、出穂始め（不稔対策）と出穂 7～10 日後（斑点米対策）に防除を行ってください。

また、発生地域が拡大傾向にあるので、昨年発生が見られなかった水田でも注意してください。



図 3 イネカメムシ

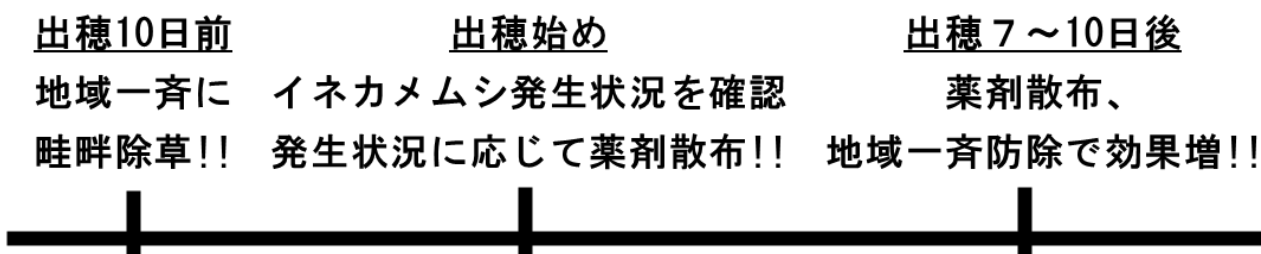


図 2 斑点米カメムシ類の対策

(6) 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の対策（図 4）

南米原産の多年生雑草で、相模川水系におけるほとんどの市町の水田で侵入を確認しています。定着すると根絶が困難で水稻に被害をもたらすため、早期発見・防除が重要です。

水田に疑わしい雑草が見られた際は、最寄りの JA または農業技術センターにご連絡ください。

対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。



図 4 ナガエツルノゲイトウ

(7) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を避けて作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。

【参考】

表3 神奈川県農業技術センター（平塚市）における出穂期

作期	品種名	出穂期（平年値*）	出穂期（幼穂長から予想）
6 月 上 旬 植	はるみ	8月9日	8月11日
	にじのきらめき	2025年の出穂日 8月5日	8月11日
	てんこもり	8月14日	8月16日
6 月 中 旬 植	はるみ	8月15日	8月17日
	にじのきらめき	2025年の出穂日 8月12日	8月17日
	てんこもり	8月18日	-

* ‘はるみ’ 2016～2025年までの過去10年平均 ‘にじのきらめき’ 2025年の値

‘てんこもり’ 2018～2025年までの過去8年平均

幼穂形成期以降の水不足（出穂25日前頃～）は、玄米外観品質や収量の低下に繋がります。

No.	参照内容		QRコード
1	病虫害防除対策	農業技術センター病虫害防除部 「令和8年度病虫害発生予察情報」	
2	農薬の適正使用	農業技術センター病虫害防除部 「令和8年度防除情報(病虫害情報 号外 第5号) 令和8年度農薬危害防止運動」	
3	ナガエツルノゲイトウ	農研機構 HP 「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」	
4	熱中症対策	農林水産省 HP 「熱中症対策パンフレット&熱中症対策関連情報集」	

問合せ先
神奈川県農業技術センター
普及指導部 作物加工課
TEL：0463-58-0333 内線381～384